

### 教材のダウンロード期限について

毎週金曜日の朝 7:00 に「ニュース教材を発行しました」というメールを、全ての購読者の皆さまにお送りしていますが、一部、メールの届いていない先生がいらっしゃるようです。そのメールでは、以下のお願いをしています。

「できるだけ3週間以内に、教材をダウンロードして下さい。」

もし期間内にダウンロードできなかった場合は、お手数ですが、パスワードをお教えしますので、お問合せ下さい」

Instagram または Facebook をお使いの皆さまには、毎週、金曜日のお知らせを出しているのですが、メールが届かない方には、恐れ入りますが、どちらかをフォローしていただけますよう、お願いします。

★椿由紀 Instagram [https://www.instagram.com/yuki\\_tsubaki2020/](https://www.instagram.com/yuki_tsubaki2020/)

★椿由紀 Facebook 掲示板「ニュースで学ぶ真の英語」

<https://www.facebook.com/groups/1893832927525144>

### この教材の使い方について

- (1) 教材は Word ファイルでリリースします。不必要と思われる問題のカット（削除）、本文や設問のアレンジ、差し替え、加筆修正は自由です。先生方が授業で使いやすいように、お好きなように加工して下さい。
- (2) 「この問題は簡単すぎる」「設問は日本語でなく英語にしてほしい（逆に難しいから英語でなく日本語にしてほしい）」というご意見をいただきますが、全ての先生方の要望に応えられず申し訳ありません。私の判断で、英語が良いと思った設問は英語に、日本語が良いと思った設問は日本語にしています。先生方の判断で言語は自由に変えて下さい。
- (3) 毎回、スペリングや文法ミスがないか、細心の注意を払っていますが、間違いに気付いたら、後からホームページに訂正版を出しています。申し訳ありません。もしスペルミスや文法ミスに気付いたら、教えていただけましたら助かりますが、お時間がなければ修正してそのまま授業でお使い下さい。
- (4) 全ての教材に、「この英文を暗唱しよう!」というページがあります。毎回、重要な文法や使える表現を含むキーセンテンス3~5文を選んでいきます。これは「夢タン」などの参考書の著者として著名な木村達哉先生のセミナーで「英語は何度も音読して暗唱するのが上達の近道!」と教えていただいたことにより、8月から始めました。文を暗唱してから本文を読んでも、全文を読んでから仕上げに英文暗唱しても、どちらでも良いと思います。生徒さんの習熟度と状況に合わせて、やってみて下さい。

### 教材執筆にあたって参考にした記事

[https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/20231204\\_03/](https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/20231204_03/)

<https://japannews.yomiuri.co.jp/world/wider-world/20231204-153644/>

<https://japannews.yomiuri.co.jp/society/general-news/20230605-114010/>

<https://www.asahi.com/ajw/articles/14784986>

<https://tolonews.com/index.php/afghanistan/provincial-186350>

<https://www.asahi.com/ajw/articles/15026368>

<https://www.unrefugees.org/news/afghanistan-refugee-crisis-explained/>

<https://sp.m.jiji.com/english/show/27306>

<https://mainichi.jp/english/articles/20230715/p2a/00m/0na/012000c#:~:text=TOKYO%20%2D%2D%20T%20he%20Japanese%20government,the%20Afghan%20administration%20in%202021.>

## 1 ページ 単語テスト

- 単語テストからスタートします。QR コードから音声聴いて、聞こえた単語を書き取って下さい。
- もちろん、音声を聴かないで、先生が教室で声に出して読んでくださった方がもっと良いと思います。  
時間がなければ、この単語テストを生徒さんの宿題にして、家でやってきてもらうのも良いでしょう。
- 点線のところで切り取って下さい。上半分はテスト。下半分はテスト後、生徒さんに配って答え合わせしてもらって下さい。
- 単語テストとは、普通は、「プリントに英語が印刷されている→日本語で意味を書く」または、「プリントに日本語が印刷されている→英単語を書く」という形のものが多いと思います。この単語テストの形式は、「耳で聞き取った英単語の綴りを書き (Dictation)、なおかつ、その意味を書く」というもので、英語脳と日本語脳の両方を活性化することをねらったものです。英語ニュース教材「茅ヶ崎方式 英語会」の単語テストを参考にしました。

## 2 ページ

Q1 (1)Orchestrating massive irrigation projects and (2)tree-planting activities

Q2 On December 4<sup>th</sup>, 2019.

※1 段落第1文に “December 4<sup>th</sup> marks the fourth anniversary of the death of Dr. Tetsu Nakamura”とあります。ここから判断できます。

Q3 (He started to give medical support) in Pakistan’s northwest region of Peshawar. He saved patients with leprosy.

※世界地図を見ると、パキスタンとアフガニスタンの2国が国境を隔てた同士であることがわかります。(この2国は文化も宗教もよく似ています。)

Q4 (解答例) 貧困により、十分な食べ物と清潔な水がないこと

Q5 (和訳) 私達がどんなに多くの薬を提供しても、真の意味で根本的な問題を解決することはできない。  
(the fundamental problems) 貧困が原因で人々は病気になり、若者たちが兵士に志願すること。

Q6 It is a severe drought that hit Afghanistan in 2000.

Q7 It is an Islamic school where children can learn how to read, write and do simple calculations.

Q8 (解答例) ★2001年の同時多発テロ事件以来、「イスラム教は、野蛮なテロリストたちの邪悪な宗教」という偏見が世界中の人たちの間にはびこり、堂々と自分の信仰を守ることができなくなっていたから。

★同時多発テロ事件以来、イスラム教を信じるのが、まるで悪いことであるようにアフガニスタンの人たちは感じており、祈る場所、神様と語る場所に飢えていたから。

※(著者補足) 同時多発テロ事件の報復措置として、アメリカ軍がアフガニスタンを空爆したため、多くのモスクが破壊されたという背景があります。

## 3 ページ

Q9 経済的な援助は日本から来ているが、モスクや用水路を建設したのはアフガニスタンの現地の人々自身の手だということ。

Q10 (解答例) The canal can provide safe water, which helps the harvest of vegetables and rice.

Thanks to the canal, residents in the region got plenty of food. As a result, they became healthy. They don’t get sick any more, and so they don’t need medicine or doctors.

Q11 The local officials of Nangarhar and Peshawar-kai have.

A project to build canals will be completed by next March.

Q12 現地の住民の年収が増えるように、雇用を生み出そうと努力してくれたこと。

Q13 Dr. Nakamura developed effective construction methods that did not require expensive machines, and always tried to help Afghans.

Q14 (解答例) 何を書いても自由ですが、解答例を挙げます。

★Dr. Nakamura was not only kind, but also helped Afghans to be independent of financial support from Japan. He didn't just build irrigation canals, a madrasah and mosque, but he taught the local residents how to construct them by themselves. That's why even after his death, Afghan people have continued to build canals and tried to make their villages better for the future generations.

★Dr. Nakamura provided both physical and mental support to Afghan people. Thanks to the construction of irrigation canals, the lives of the region got better and people were saved from poverty. Not only that, Dr. Nakamura cared about their faith. Even though Dr. Nakamura is a Christian, he built a mosque for Afghan people who are Muslims, because he knew it is important for everyone to have a place to give a prayer and talk to God.

#### 4 ページ

Q1 Conflicts, droughts, chronic poverty, food insecurity, COVID-19 pandemic and most recently, a changeover in authorities.

Q2 The Taliban militant group returned to power.

Q3 Syria, Ukraine, Afghanistan

Q4 114 Afghans did.

Q5 (解答例)

★Japan has accepted few refugees compared to other developed countries.

★Germany has accepted a lot of refugees.

#### 5 ページ

Q6 難民事業本部が提供しており、基礎的な日本語教育や雇用支援が含まれている。

Q7 (解答例) 医者や大学教授のような知的な職業の人々も、日本語の能力がないため、肉体労働をせざるを得ない。

Q8 (解答例) アフガニスタンから難民として日本にやってきた子供たちは、日本語能力がないため、高等教育を受けられない。日本語学校に通えば良いが、家族の生活を支えるために働きに行かざるを得ない。すると、日本語学校に行く時間がない。だからますます高等教育から遠ざかる。こうして彼らは永久に日本語が上達せず、高等教育も受けられない。だから良い仕事につくことができない。

Q9 Only 2 out of 106 did.

Q10 (1)アフガニスタン難民とウクライナ難民

(2)アフガニスタン難民に対する支援は不十分であるのに対し、ウクライナ難民については、日本財団が生活費をカバーし、日本語学校で授業を履修するウクライナ難民のために奨学金プログラムを紹介するなど、充実した支援を行っており、両者の待遇の違いが歴然としているから。

Q12 解答例

★I think Japan should accept more foreign people to work for two reasons.

First, it will help to make up for the labor shortages, especially in industries with high demand. Second, if there are people with various backgrounds, cultural diversity can bring innovation and new perspectives. As a result, we can enhance Japan's international competitiveness in the long run.

★I don't think accepting more foreigners to Japan is a good idea for two reasons.

First, if there are more foreigners with various backgrounds in Japan, there will be cultural assimilation challenges. It is hard for foreigners to master Japanese language, and adapt to the life in Japan, because they have different languages and customs.

Besides, if there are too many foreigners, it will be difficult to share jobs and resources, making life more challenging for everyone. As a result, some Japanese residents will have hatred and prejudice against foreign residents.

指導の手引 (NHK による中村哲さんの英語ドキュメンタリー)・・・2020 年 12 月に発行したものと、内容は同じです。

[https://www.youtube.com/watch?v=U\\_gxTsT6khg&t=2462s](https://www.youtube.com/watch?v=U_gxTsT6khg&t=2462s)

この動画の内容はとても良いですが、全部見ると 50 分もあり、長いです。

そこで、私が授業中に生徒さん達にピックアップして見せたいと思う場面を紹介します。

最初～2:40 アフガニスタンの中村医師の紹介。灌漑施設を作る

4:45～7:08 栄養状態が悪いのは、干ばつが続いて水不足だから。水の取り合いで喧嘩する市民。空爆が始まり、パキスタンに避難する中村さん。

7:18～7:50 (アメリカの空爆が始まって、自分の村に住めなくなった人たちの) 難民キャンプの様子

9:35～11:40 灌漑工事のやり方を、アフガニスタンの人たちに英語で説明する中村さん。「僕は医者だから、建設のことはよくわからないよ」(笑)

11:55～12:23 中村さん英語でスピーチ。「毎日、水不足のせいで子供たちが病気になっています。私たちの未来は、この灌漑工事の成功にかかっています。」

14:36～14:52 CG を使った工事の説明。Weir(堰)とは何か?

19:42～21:03 人々が灌漑工事をしている時、タリバンとアメリカ空軍の衝突が始まる。アメリカの軍人の車などがしょっちゅう通りかかり、人々を不安にさせる。中村さんたちが撃たれたこともある。(後日、アメリカ空軍は謝罪した)

23:55～25:21 灌漑工事の問題解決法。そのヒントは自分の故郷の筑後川と山田堰にあった。堰が斜めに(diagonally)建てられれば、崩れる心配がない。

33:05～34:25 7 年後、25 キロの水路がついに完成。不毛の地だった土地が、美しい緑に。  
(2003 と 2010、ビフォーアフターを比べる映像があります)

35:08～36:50 秋。収穫の季節。現地の方が笑顔で「こんな砂漠みたいな場所で、お米を収穫できるなんて思いませんでした!」と語る。野菜や魚も獲れるようになる。子供たちの笑顔。

37:00～37:20 中村さんは新しいプロジェクト:モスク建設に着手。それは村の人たちの熱心な希望だった。

38:27～ 中村さんが日本語で、なぜモスクを建設しようと思ったか語る。(ちなみに中村さんご自身はキリスト教徒)

39:12～39:52 2 年後、モスク完成。学校も始まる。授業料は無料。人見をキラキラさせて学びに来る子供たち。

40:52~41:20 建設工事成功の式典。村人たちに拍手され、ハグされ、愛される中村さん

41:52~42:05 12年の歳月がたった。砂漠が緑に。

42:35 図解：中村さんが灌漑工事によってもたらした緑の地

42:40 村の人たちが中村さんにお礼を言う(英語字幕あり)→中村さんのインタビュー(現地語)

45:31 「これは平和運動ではなく医療の延長です。」と中村さん。

47:35 中村さんの記念碑。アフガニスタンの人々から、中村さんに灌漑施設を作ってほしいとリクエストが届くようになる。そこで中村さんは、自分の経験を若者たちに伝える新しいプロジェクトを開始した。